

2012.ISSE.アメリカ・シンシナティ・ カンファレンスレポート 2012.07.16~07.21



TSIE

2012・ISSE アメリカ シンシナティカンファレンス報告

2012年07月16日(月)

早朝から殊の外暑い炎暑の中、ANA338 便は成田国際空港に向けて 10 分遅れの 8 時 30 分にセントレアを飛び立った。思えば、常滑で ISSE カンファレンスを開催してからあつという間の 2 年だったような気がする。2 年前の約束通り今回のカンファレンスは総勢 6 名(大人 5 名・児童 1 名)と言ったこれまでにない参加者である。早起きしたせいで心地よいエアコンの中、機内サービスにも気づかずウトウトしていたら、「左手に(仕事で搭乗のいつもの仙台便は右だったので右かもしれない)富士山がご覧いただけます」とアナウンスが流れ、しばらくすると「まもなく降下します」とアナウンスが続きあつという間に成田国際空港に到着した。国際線の手続きはセントレアで終わっていたのでスーツケースを預けたら、迷路のようなアクセス路を我が身一つだけの移動で最初の経由地であるシカゴに向けて定刻 40 分遅れの 11 時に出発する。後で分かったことだが、日本の航空会社の機内エアコンは我々に合わせてあるので寒くも、暑くもなく快適である。2 週間前に搭乗したあのシンガポール航空でさえ寒く、その時の経験を生かして機内に持ち込んだトレーナーが不要であった。シカゴオヘア国際空港までのフライト時間(時差は考慮せず実質搭乗時間)は 11 時間 20 分であった。時差と日付変更線の為、未だ 16 日の 12 時 20 分着で、日頃時間に追われている者にとって儲かったような気になるのはバブルをもちに経験した年代しか分らないと思う。シカゴオヘア国際空港は世界でも最大級規模の空港で日本からの便はターミナル 5 へ到着する。シンシナティへの乗継はターミナル 1 と言うことで



無人モノレールにて移動となる。何故だか良く分からないがこの空港にはターミナル 4 がない。日本であれば縁起が悪いと言った理由で 4 を外すがまさかアメリカが?である。入念な入国審査(土問:人差し指の後、両手全ての指紋採取・顔写真の撮影等)を受け、なるほど日本人以外はもっと厳しい審査を受けて入国の為、ISSE のメンバーがアメリカとの交流を嫌がるのを納得する。モノレール乗り場は危険防止のためホームにもガード扉(ガラス間仕切りと一体となっている)が安全に配慮した設計となっている。日本でも最近では地下鉄や新幹線の横浜駅などで見られるが海外のガード扉は日本の手摺の高さのガード扉と違ってどこも(シンガポールの地下鉄も同様)天井までのフルガード扉である。エスカレーターの手摺にまで



までコマーシャル広告をしている下品な名古屋市の地下鉄は少し見習った方が良くもしい。

シカゴからシンシナティまでは45分のフライト（eチケットでは1時間11分）で16日14時50分に到着した。只、ユナイテッド航空の国内線機内は予想通りエアコンのフル運転で凍える位寒くトレーナーを素早く着込んだ。キャビンアテンダントの半袖が信じられない。

こうしてセントレア出発から20時間20分でシンシナティ北ケンタッキー空港（Cincinnati-Northern Kentucky International Airport）に到着した。空港では迎いの先生と土居さんの息子さんのホームステイ先のホストママの歓迎を受け、一路、ホテルに向かう。片側5車線のハイウェイや車窓から臨むシンシナティ

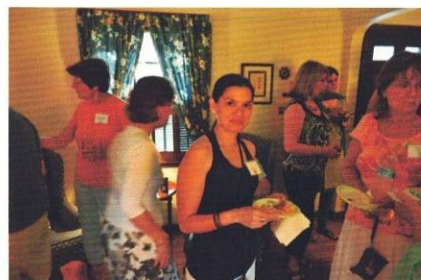


の市街地の高層ビルのガラスのカーテンウォールがここはアメリカだと主張する。こうして我々は、16時15分にHannaford Suitesホテルに到着した。ロビーで2年ぶりにドナと再開する。ドナはISSEの中では私にとって最もアメリカを感じさせてくれる人で1999年のインドカンファレンス以来、13年の付き合いである。13年前はいかにもと言



ったアメリカ美人であったが今はエレガントなおばあちゃんに進化している。休む暇もなく荷物を部屋に置いてレストランに向かう。アメリカらしい合理的な行動パターンである。レストラン TAP HOUSE GRILL は日本で言えばファミレス風ステーキハウスと言ったところ。私と平岡君はビール（ライム付のコロナビール風のバドワイザー）とフィレステーキを注文する。オーダーも終わり落ち着いて改めてカンファレンスメンバー（ベヴ・スー及びメキシコは明日合流）と片言英語でコミュニケーションを図る。ISSEカンファレンスに参加して何時も思うのは、言葉がもっと話せたらである。只、日本の英語教育の現状から英会話が出来ないことを嘆くのは空に唾を吐くようなものである。ISSE会議で彼らと英語で議論出来る先生は常滑市内の中学校の先生にはいないと思う。英語を話せない先生に英語を習うのであるから話せないのは当然なのだ。N陵中学校のF川校長とPTA役員のYさんがTSIE事業に後向き発言をしていた（実際には批判していたと思うが）と少し前に耳にした。こうした人達が中学校をリードしているのだから底が知れる。日本が韓国や中国に国際会議であつという間に抜かれ置いてかれるのも頷ける。もっと国際交流に真摯になるべきだと思う。そうすれば、韓国と竹島問題、中国と尖閣諸島をめぐる問題も違った方向に向いていたのではと思う。

話を元に戻すと、コスタリカ・セントアンソニー校のアンドレア先生は黒い瞳と黒髪が特徴の美人先生。お馴染、オーストラリアのジョアンナはいつもながらの魅力



的な声で話すインテリ先生。エクアドルのアイオナさん（間違っていたらごめんなさいだが多分合っていると思う）は、典型的な中米女性でお嬢さんと一緒に参加。インドの先生（名前忘れた？不明）は実に個性的で明日からも独自の個性が見られると思う。

とにかく、第一日は無事に過ぎ、大移動の疲れもピークでいつの間にか爆睡であった。

2012年07月17日（火）

ISSE カンファレンスは18日からの為、今日はドナさん達の案内でシンシナティ散策をしてアメリカらしさを体験するツアーに出かける。ドナの計らいだと思うが、最初は大型スーパーマーケット発祥の地に敬意を表して売り場演出型の大型スーパーに案内してもら

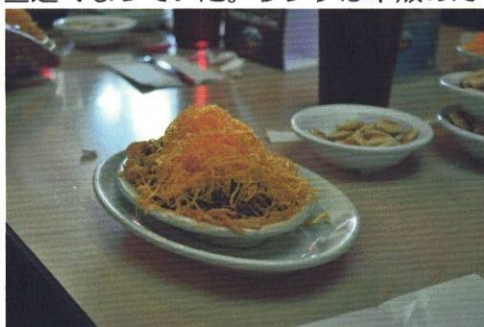


う。世界中の食材が一



堂に会しここ（アメリカ）では異常気象や戦争、貧困な下町の陋巷で飢餓に苦しんでいる子ども達のことは想像出来ないと思う。南国のドラゴンフルーツの隣に日本のレンコンが並びコスタリカ産の穀物、インド産の調味料、アイルランドのジャムから拳句の果てにはかなり個性的な銘

柄の日本酒まで所狭し、と並ぶ。冗談ではないが、こんな国と戦争して勝てるわけが無いと思う。規模に圧倒され見学と買い物が終わったのは昼近くなっていた。ランチは市販のガイドブックにも掲載されているフランチャイズのファミリーレストラン「スカイライン・チリ」でスライスしたチーズを山のようにのせ、(Bowlのスリーウェイと言う) チリソースのかかったスパゲティというシンシナティ名物料理を注文した。前日のステーキハウスでアメリカの分量が分かっ



ていたなのでスモールサイズを注文したら、少し量が足りないで結局、お代りした。午後はホテル近くのショッピングセンターを散策する。その後、ホテルでゆっくり休んで、夕食はボブさんの自宅のホームパーティ。参加者が全員顔を合わせたパーティはTVや映画で見る憧れのアメリカの家庭でのホームパーティで、言葉が話せなくても単語とジェスチャーで意思疎通を図る。



2012年07月18日（水）

いよいよカンファレンス初日となる。会場は SACRED HEART OF JESUS 校。何時も

のように国旗入場から始まる。日本の旗手は土居さんの息子さん TATSUhide 君、ニックネームはたつ！

先ず、ベヴが今回の会議のアジェンダ（議題）を説明する。聞きながら、英語の出来ない事を悔いる。

会議の内容は大まかに以下の通り

1. フォームについて

派遣校は、少なくとも派遣予定の2カ月以上前に個人情報に関するフォーム6・7をホスト校に送る必要があり、そうしないと結果として、キャンセルを招く場合もある。そうすれば、ホスト校は少なくとも受入1カ月以上前にホストの名前を知らせる事が出来、たっぴりコミュニケーションをとることが出来る。直前の情報提供とならないよう注意。我々（日本）は厳守しているのにどうも各学校は守っていないようだ。話は変わるが、今回のカンファレンスに参加して集合場所で何時も案内担当のアメリカの先生から私が言われたことは、日本の皆さんは何時も punctual である。

2. 派遣団の定員・年齢などについて

参加児童の年齢は、旅行する時点で10歳、最高12歳であり、引率者は通常2名で、各学校はこれに沿って準備を進めること。土壇場での児童、又は引率者の追加等はしないよう注意。

3. 派遣児童とのコミュニケーションについて

携帯電話、Iパッド、又はその他のコミュニケーション機器の児童所有は禁止。

4. 交流期間について

交流期間は3~4週間がよい。2週間では児童に効果を与えるのには短すぎる。

5. 会計報告について

ポプさんが会計報告。承認された。

参加者全員が中庭（SACRED HEART OF JESUS 校の紹介写真に出てくる場所）で集合写真撮影。ランチタイムにドナが今晚の大リーグ野球観戦のチケット（シンシナティ・レッズ対アリゾナ・ダイヤモンドバックス）を配り、夢にまで見た大リーグ観戦が近づいて



きた。ホテルに帰り時間まで休んでいると、あたり一面が暗くなり雷雨となる。心配の中、野球場に向かう。日本で言うタ立ちのようなもので到着の頃には雨も上がりグレート・アメリカン・ボール・パーク（球場）を目の前にエキサイトしてきた。ドナと一緒に Let's go Reds Let's Go Reds !!!

大リーグは完全なフランチャイズ制で相手チー





ムの応援はほとんどいない。ボブ、ベヴ、スーと一足先に球場に着いたので自分の席を確認したら、ボブが球場を一周して案内してくれた。我々も MLB 公認の公式キャップでレッズの一員となって応援する。Let's Go Reds Let's Go Reds!!! 結果は 1 回にホームランを打たれ大差で敗戦（翌日は大勝利だった）。途中でボブとベヴ、スーが帰ったので帰りは別の車でホテルに向かう。途中、私が建築の設計をしているということで、シンシナティの中心市街地のめぼしい建物をガイドしてくれた。

2012 年 07 月 19 日（木）

カンファレンス 2 日目の会場は Bethany School。学校は公園のような緑豊かな立地の中にあり、送迎してくれた先生が、いかにもアメリカ女性と言った陽気な先生で親切にゆっくりと緑の中の住宅地を巡回してくれたお陰で遅刻して到着し



た。We are always punctual 神話が崩れて残念であった。

マッチングが行われ、私が最初に引いた（くじ）が西浦南小（事業休みの）であった為、私の独断でキャンセルした。歴代の西浦南小の委員会の基礎を造ってくれた小西さん、磯村さんに申し訳ない。

組み合わせ結果は以下の通り

2013 年

- ベサニ校（アメリカ）：常滑東小（受入）・西浦北小（派遣）
- ブエナ・ティアラ小学校（メキシコ）：大野小（受入）・小鈴谷小（派遣）

2014 年

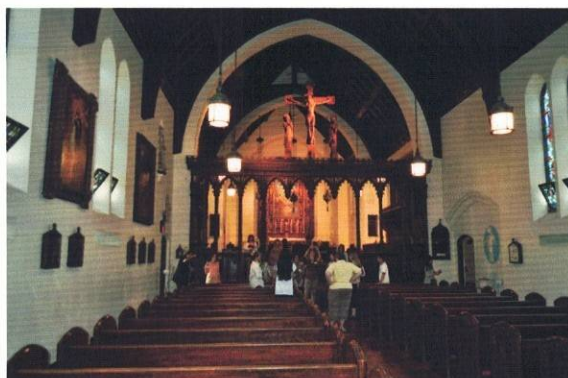
- ウーデンハイツ小学校（オーストラリア）：西浦北小（受入）・大野小（派遣）
- トーマス・アルバ・エジソン小学校（メキシコ）：小鈴谷小（受入）・常滑東小（派遣）

※アメリカとの交流はこれまで休みが TSIE と重なり不可であったが、日本との組み合わせ

に興奮した先生が日程調整して早く始めてくれるとのこと。

又、カンファレンスの今後の予定は以下の通り。

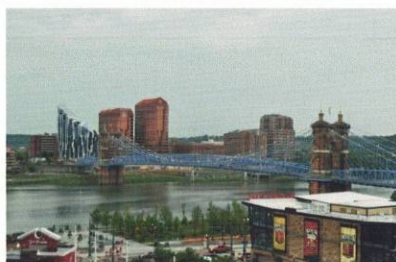
2014年（オーストラリア）・2016年（エクアドル）・2018年（中国）・2020年（メキシコ）組み合わせ決定の交流に対し、150USドルの支払い義務があり、全ての学校が、交流を断ったり、一部の交流（派遣のみ・受入のみの場合でも）150USドル支払いの責任がある。以上が承認された。



会議終了後はベサ二校の見学ツアー。素晴らしい環境の中、それぞれの先生のクラスルームのある建物を見学する。この日のディナーはオハイオ川のディナークルーズで、我々



は前日のグレート・アメリカン・ポール・パークを正面に臨み、ニューヨークのブルックリン橋の設計者ジョン・A・ロー



ープリングの手によるその名の通りジョン・A・ロープリング橋を臨みながらクルーズは出発する。ロープリング橋はまるでゴシック建築を横に伸ばしたようで、建築を勉強している者にとっては涙が出る位美しい。大きなローストビーフが一日の空腹を満たしてくれ、バドワイ



ザーライトビールとの相性は抜群だ。アルコールが程良く廻り、心地よさにうっかり、オーストラリアのジョアンナ・ミーハンをダンスに誘った。日本人と違ってすんなり踊ってくれるところが私の下手くそな踊りはともかくエスコートする甲斐がある。

2012年07月20日(金)

会議もあつという間に最終日を迎える。最終日の会場はST.MARY SCHOOL。総括をしてセント・マリー校の見学ツアー。澤田さんは西浦北小が1998年(受入)2000年(派遣)にアメリカ・グラハム小学校と交流した時の引率のグレン先生のお宅にこれから3日間ホーム



ステイの為、ここでお別れとなる。グレン先生とは私も1998年からの付き合いとなり翌年のインドカンファレンスでも一緒した。そんなことを車の中で懐かしく思い出しながら、私と平岡君、エクアドルの先生、コスタリカの先生、そしてメキシコのアリアナさんはアウトレットでショッピングの為、郊外に向かう。その後、これもガイドブックに出てくるリブの有名店、Montgomery Innでフェアウェルディナー。我々は先ず、今回のカンファレンスの終了証を頂く。その後の会食は、僅か4日間で親しくなったISSEの先生方と

別れを惜しみながらの歓談で時間があつという間に過ぎてゆく。2年後のオーストラリアカンファレンスの再会を約束してホテルに向かう。



2012年07月21日(土)

あつという間に1週間が経過した。いよいよ帰国である。カンファレンス出席者はそれぞれが充実した会議の成果を持って帰国する。搭乗時間の関係でホテル出発は早朝となる。チェックアウト時、私のミスで精算金額の食違いがあったが大きなトラブルもなく空港へ向かう。早朝にも関わらずドナはホテルから空港まで見送りに来てくれた。もしかしたら、リタイアしたドナとはこれが最後かもしれないと思うと1999年のインドカンファレンスから友人でいてくれたドナに目いっぱい感謝をしなければと思う。往路を逆にシカゴ、成田、セントレアへ順調に向かう。成田で日本の蒸し暑さを思い出し、避暑から帰ってきたようにシンシナティに思いをはせたのは私だけではないと思う。



ドナのおもてなしに感謝!!!

Let's Go Reds!! Let's Go Reds!! Let's Go Reds!!